

東工大 AOTULE 学生会議 参加報告

東京工業大学が加盟するアジア・オセアニア工学系トップ大学リーグ(The Asia-Oceania Top University League on Engineering、以下「AOTULE」)は、アジアとオセアニアの 13 大学からなる連盟です。加盟する大学間の合同ワークショップや、学生・教職員の派遣交流などを通して、工学系の教育研究の質を向上させ、国際意識を養うことが目的です。

AOTULE は年に 1 度、加盟大学の学生が集まり研究発表を行う「学生会議」を開催しており、2019 年度は 11 月 25 日から 27 日にかけて、本学の大岡山キャンパスで行われました。東工大からは学生計 20 名が参加し、他の加盟大学からも 37 名が参加しました。参加した東工大生に、会議を振り返ってもらいました(所属は学生会議参加時のものです)。

AOTULE 学生会議 参加報告

物質理工学院 応用化学系 応用化学コース 修士課程 1 年 原昇平

2019 年 11 月 25 日から 27 日の 3 日間、東京工業大学(東工大)にて開催された、AOTULE2019 に参加させていただきました。アジア・オセアニア地域から 11 カ国、57 名(東工大生を含む)の学生が集まって会議およびディスカッションを行い、大変刺激的で貴重な時間を過ごさせていただきました。本稿では、その学生会議での経験について報告いたします。

AOTULE 会議の主催は、AOTULE 加盟校での持ち回りとなっており、今年東工大がホスト校でした。初日は「ウェルカム・レセプション」が催され、学生会議の本番は 2 日目と 3 日目でした。2 日目の午前中に「Student Conference」と称し、各学生が 5 分で自分の研究内容を紹介しました。発表は 4 つの部屋に分かれて行い、「Affordable and Clean Energy」、「Sustainable Cities and Communities」、「Clean Water and Sanitation」、「Responsible Consumption and Production」、「Industry, Innovation and Infrastructure」、そしてそれ以外というようにテーマごとに部屋が分かれていました。テーマごとに区切られてはいるものの、普段学会で聴講するより非常に大きな括りでの発表であったため、言葉選びや論理の飛躍をいつも以上に気を付けて発表に臨みました。各セッションの運営も学生中心で行われ、私は今回、1 つのセッションの座長になる機会にも恵まれました。座長は普段は行わない経験であり、その場で初めて出会った他大学の学生とペアを組んだため、始めは段取りが悪く、2 人同時に話し始めてしまうなど拙い場面がありました。しかし、質疑応答の場面では積極的に質問してくれる学生もおり、後半はスムーズに進行することが出来たのではないかと感じています。発表後には不明点についてお互い指摘して、昼食の際に白熱した意見交換を行うことで今までとは異なった見方をすることが出来ました。今回の経験を通じて、異なる専攻や文化の人への発表のために理解をしてもらうには一工夫必要である一方で、新たな知見や気づきを得るために非常に重要な機会になったと私は感じました。

2 日目の午後からは「Student Workshop」と称し、午前中の会議で分かれていた 4 つのテーマに関して 1 班 9 人のグループで討論するという内容でした。先ほど挙げた 4 つのテーマは国連サミットで採択された SDGs の 17 の目標の中の一部で、ここ数年、各企業でも「持続可能な社会」を目指してこれらの目標に沿

う製品・サービスを展開しています。私のグループでは"Industry, Innovation and Infrastructure"について



Student Workshop



東京観光・浅草寺

アジア・オセアニア地域で何をしていくべきかについて話し合いを行いました。産業の地域格差をなくすにはどのような手段をとるべきかについて具体的に討論を行いました。メンバーの多くは、自国での企業の取り組みのみならず、多くの国に対して興味や知識があり、次々に意見が飛び交う白熱した討論となりました。意見の出し方がこれまでに私が経験してきたワークショップと違うと感じました。私が今まで行っていたのは基本的に一人ずつ意見を発表してそこからまとめるという形が多かったのですが、付箋に意見を書いて机中央に集めたり、黒板に自由に書き出すなど多彩な表現方法があり、国の違いによる言葉の違いなども聞くだけよりわかりやすく、理解や討論のための重要な助けとなりました。

他方、上記の学生会議の他に、東京の観光地巡りとして浅草とお台場のチームラボを訪れました。私は中国出身の学生と一緒に見物をしました。今回訪れた場所は何度か来たことのある場所だったのですが、日本での寺に対する考え方や建築の様式などについて質問され、いくつかの質問には答えることが出来ませんでした。日本人として異文化交流をしていく上で、自国の歴史や文化について最低限知識を身に付けておくとともに、各国での違いについて理解をしておく必要があると感じました。

AOTULE2019 学生会議を通じて、異なるバックグラウンドを持つ人に興味をもってもらい伝え方や異なる考え方への理解、異なる目線での物事の見方、自国についての知識の重要性について再認識しました。日本での生活においても海外出身の人と関わらない日が少なくなっている今日において、異文化交流は必須であると感じています。その中で私たち日本人は世界の方々とどのように歩を進めていくのかを各人が考えていかなければならない時代になっています。今回の経験はグローバル社会においてどのような行動をとるべきかを考える上で貴重な経験となりました。